

連続セミナー第1回「都市とランドスケープ」開催 94.9.17

ヨコ型職能としてのランドスケープ

SLAスタジオランドジャパン 川井 由寛

「ランドスケープ」という言葉は、最近色々なところで「はやり言葉」のように聞かれますが、その解釈は人それぞれによって微妙に違うのではないのでしょうか？。プランニングに近いものから、アートに近いものまでありますし、我々の仕事を例にとってみても、数千ヘクタールのマスタープランから個人住宅の庭のデザインまで、様々なスケールの仕事を含んでいます。ある意味では、「専門的な職能制度からこぼれ落ちた部分」を総合的に取り扱う職業と言えるかもしれません。

現在の日本の仕事のやり方を見ますと、公共、民間を問わず組織が縦割り、仕事のやり方も非常に硬直化しています。これは教育制度についても同じ事が言えると思います。土木、建築、都市計画、造園などの分野がそれぞれに独立しており、それら相互の交流は殆ど見られません。場合によってはいがみ合っていたりさえしています。

今回のセミナーでは、我々の日常の仕事をスライドによって見て頂きながら、「ランドスケープ」の受け持つ領域の広さ、また様々な各専門分野を「ヨコ」に串刺しにして合理的な計画を組み立てていくことの大切さを伝えられれば、と思います。

地球環境に対する配慮が世界的なテーマになってきている現在、「ランドスケープ」の持つ重要度は将来にわたって益々大きくなっていくものと思われます。こうした「総合的に物事を見ることの出来るプランナー、デザイナー」になるための資質として、デザイン教育を受けた建築学科の学生は良いものを持っていると思います。こうした下地の上に様々な研鑽を積み重ねて、長い経験とバランス感覚を必要とするプランナー、デザイナーを目指して欲しいと思います。ただ若い人達にお願いしておきたいのは、「言葉だけのプロ」にはならないで欲しいという事です。「コンセプト」とは具体的なイメージが伴って初めて機能するものだ、という事を肝に銘じて、コミュニケーションの技術を磨いてもらいたいと思います。

連続セミナー第2回「アジアのまちづくりとNGO」

担当：藤井敏信（十文字学園女子短期大学）

ゲスト：アジアのまちを考える日本のNGOのメンバー

アジアの動きが盛んだ。人口の増大、経済の高度成長、大都市の拡大・・・さまざまなことがらから伝わってくる。その一方でアジアを全体で捉えられるのか、私達の歴史との重ね合わせをどのように考えれば良いかなど、基底する課題も積み残されたまま。私達はアジアの大都市に入り込む。スラムの人々と交流をする。そこで何が出来るのか。どのような役割が出来るか。具体的な経験を交流し合おう。皆様の参加を大いに期待します。

■開催日時：平成6年10月15日（土）午後2:00～4:00（懇談会4:00～）

■会場：早稲田大学理工学部キャンパス57号館201教室

■連絡先：早稲田大学理工学部建築学科佐藤研究室 TEL/FAX 03-3205-2897

■参加費：会員 3500円、非会員 2000円、学生無料、懇談会は実費

ランドスケープアーキテクト??

ランドスケープデザインコンサルタント 高間 譲治

<わが国における造園家と造園コンサルタントの現状>

造園コンサルタントの主な業務は、都市公園法に基づく公園の設計・監理が主な業務であるが、建築の外構、河川の環境管理計画（ふるさとの川モデル事業等）道路の修景計画・設計（シンボルロード事業等）ダム周辺の修景計画・設計、港湾緑地の整備等環境に係る各種の設計・コンサルティングを行っている。現在、（社）日本造園コンサルタント協会に所属している設計事務所は157社（正会員113社、準会員44社）あり、技術者は当然のことであるが農学部出身者が多い。造園の業務は、建築と土木の中間領域として捉えられ、両者の主導の下で協力することが多いが、他分野の専門家との意見調整を行いながら、幅広い知識・技術を持ち、環境を把握でき空間造形を行うことのできる人材は少なく、今後は益々期待される分野になると思われるので、比較的幅広い視野を持つ建築出身者の能力が発揮できる分野といえるであろう。

<シンポジウムによる「公園づくり」>

わが国における公園づくりとしては特異な事例であるが、最近ではどこの市町村でも行われるようになってきた「彫刻のある町づくり」の原点とも言える「諏訪湖国際彫刻シンポジウム（1978）」と「萩国際彫刻シンポジウム（1981）」の制作過程ビデオで国際シンポジウムによる「公園づくり」を紹介した。出来合いの彫刻を購入し、公共建築の前庭や公園・道路に設置すれば「文化の薫りのする町づくり」ができるというものではない。

上記のシンポジウムは、計画地に国内ばかりではなく海外からの彫刻家、造園家、建築家、都市計画家等の専門家が参加し、行政、市民と一体となって、歴史的環境および自然環境を考慮した上で新しく生まれる公共空間に課せられた条件を認識し、計画へのイメージを提供し合い、公園施設をデザインすると共に設置される現場で共同制作を行ったものである。

今後の連続セミナーの予定

■第3回 11/19（土）「見学会：上尾市仲町のまちづくり」

担当：若林祥文（埼玉県企画財政部）、他

■第4回 12/17（土）「都市・文化・情報、そして混沌」

担当：田村和寿（都市計画連合アトリエ）

中原蒼二（都市デザイン研究所）、他

■第5回 1/14（土）「都市再開発における住民参加」

担当：田中滋夫（都市デザイン）、他

■第6回 2/18（土）「土木とシック・デザイン」

担当：上野俊司（オリエンタルコンサルタンツ）、他

■第7回 3/18（土）「都市居住と住宅政策」

担当：村林正次（住信基礎研究所）、他